

アドバンスト施設による 次世代介護機器導入事例



社会福祉法人 泉陽会 新町光陽苑

本日お話しする内容

- 施設概要
- 導入した次世代介護機器
- 導入の手順
- 取組内容（手順1～6）
- 取組を通じて気づいたこと・重要と感じたこと
- 次世代介護機器導入を考えている事業所の方へ伝えたいこと

施設概要

運営法人	社会福祉法人 泉陽会
施設名	特別養護老人ホーム 新町光陽苑
所在地	東京都北区田端新町
定員	100名
平均介護度	3.79
職員数	76名
特徴	ユニット型特養：66床 SS：10床 地域密着型特養：24床 ユニット型特養として個別性を大切に、 「人」「心」に寄り添うケアを念頭に 運営



導入した次世代介護機器

メーカー名	パラマウントベッド
機器名	眠りSCAN
台数	85台



メーカー名	パラマウントベッド
機器名	眠りSCAN eye
台数	10台



導入の手順

導入の6つの手順

取組期間：
約12カ月

取組実施者：
約9名

手順 1	改善活動の準備をしよう	<ul style="list-style-type: none">● 情報収集● 取組に対する組織全体での合意形成● 実施体制の整備
手順 2	現場の課題を見える化しよう	<ul style="list-style-type: none">● 課題の見える化
手順 3	実行計画を立てよう	<ul style="list-style-type: none">● 導入計画づくり● 対象利用者の選定
手順 4	改善活動に取り組もう	<ul style="list-style-type: none">● 導入準備● 次世代介護機器の活用● 小さな成功事例
手順 5	改善活動を振り返ろう	<ul style="list-style-type: none">● 効果検証● 上手くいった点、いかなかった点の整理・分析
手順 6	実行計画を練り直そう	<ul style="list-style-type: none">● 実行計画の練り直し

出典：「介護ロボットのパッケージ導入モデル（改訂版）」をもとに作成

手順 1 : 改善活動の準備をしよう

取組期間 : 6月14日～12月13日

手順 1

- 情報収集
- 取組に対する組織全体での合意形成
- 実施体制の整備

● 情報収集

- 職員不足による夜間帯の休憩回しやBPSDへの対応など超勤が多くあった。
- 補助金取得の要件などを外部業者に相談、提案してもらい情報収集した。
- 既存のセンサー類ではカバーしきれないシチュエーション等、現時点での困り事をアンケート形式で情報収集した。

● 取組に対する組織全体での合意形成

- 月に一回実施しているユニットリーダー会議にて現場の意見を吸い上げをする。
- コアメンバーでの入所課運営会議にて機器選定や要望に対応できる案を検討した。
- 導入予定である次世代機器のPRを家族懇談会の場でも実施し、認知度を上げた。

● 実施体制の整備

	役職	チーム内での役割
1	施設長	情報収集・補助金申請・最終決定
2	介護主任	プロジェクトリーダー・窓口
3	入所課係長	苑アイテムの把握、担当
4	相談主任	家族への説明
5	介護主任	チームリーダー、使用例の検討
6	現場リーダー	現場状況の把握、情報伝達

問題発生！！

ZOOMでのミーティングや
初回のアドバンストセミナーを経て
ようやく次のステップへ...

手順 2 : 現場の課題を見える化しよう

取組期間 : 1月10日~2月14日

手順
2

- 課題の見える化

● 課題の見える化

原因

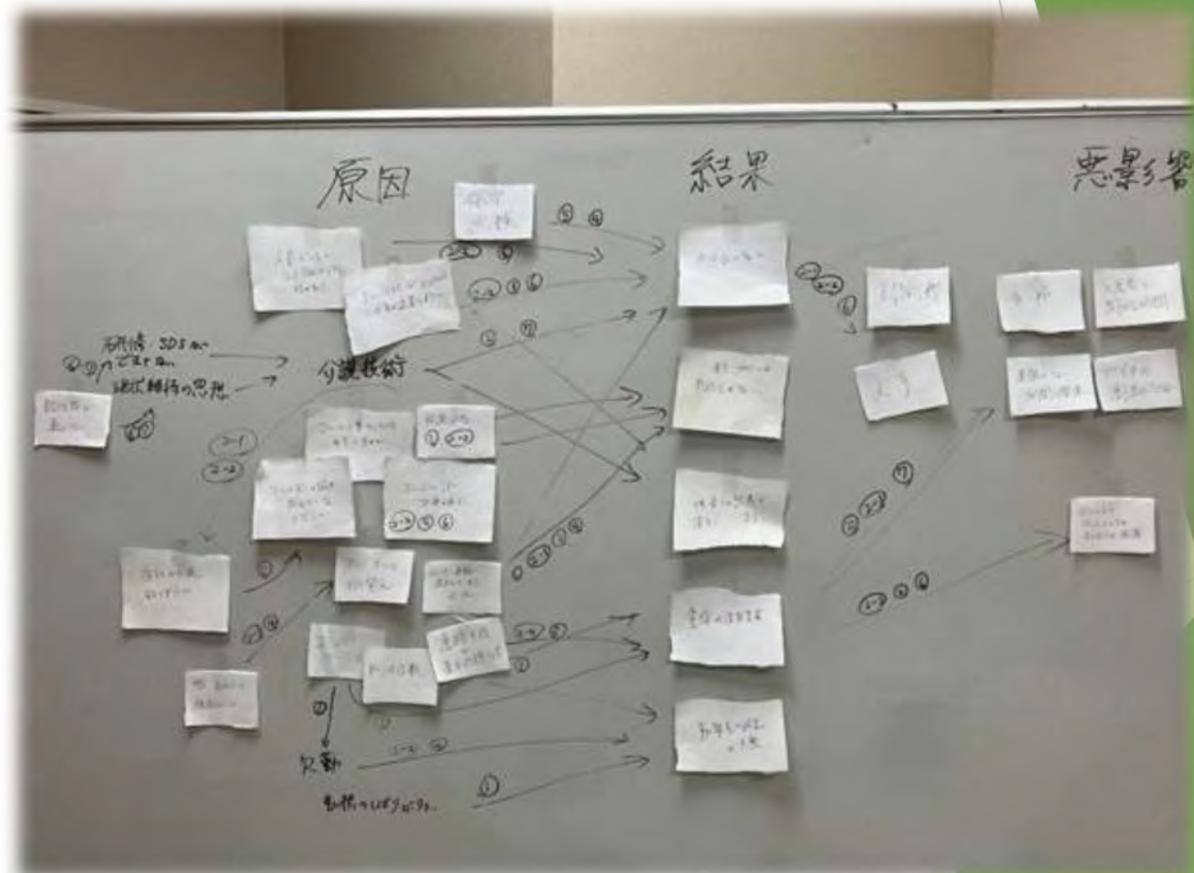
無駄な動作が多く
疲れる業務形態

結果

人手不足の常態化と
超勤の増加

悪影響

現場の疲弊



手順 3 : 実行計画を立てよう

取組期間 : 2月22日～3月15日

手順 3

- 導入計画づくり
- 対象利用者の選定

● 導入計画づくり

□ 課題解決に向けた道筋

- ・ 現場の抱える課題に対して機器導入で解決できるであろう代案を挙げる。
- ・ 上記の案、機器の使用例、ケアの固定業務の見直しを試行し、改善点を現場からフィードバックしてもらう。

□ 導入する次世代介護機器

- ・ 眠りSCAN(NN-1520) , 眠りSCAN eye (M1075-1)

□ 成果指標

- ・ 導入前アンケートにて挙げた困りごとの改善、入居者の安眠の確保、センサー重複時の優先順位の判断と事故件数の減少、入眠状況のアセスメント、職員の負担感の軽減、休憩回し不在による超勤数の減少など

手順 3 : 実行計画を立てよう

取組期間 : 2月25日～3月25日

手順 3

- 導入計画づくり
- 対象利用者の選定

● 対象利用者の選定

□ 選定した利用者

- 眠りSCAN …85床/100床 主にセンサー未設置者及び夜間帯浅眠傾向にある方
- 眠りSCAN eye…10床/100床 夜間浅眠傾向で自己行動に伴う転倒事故発生者及び頻発者。またSS利用者。

□ 選定理由

- 既存のセンサーベッド、センサーマットも併用し見守り機器の全床配備をするため

□ 選定する際に留意した点

- 新たに導入する眠りSCAN、眠りSCAN eyeが別々に使用可能か不透明であった為、導入時点ではセンサー未設置者に対し眠りSCAN を配備。
- 必要に応じて移設できるよう、85台すべてを配備するのではなく複数台余剰分としてストックしておき、使用感に慣れてから再検討する。
- 導入直後の不具合に対応すべく、既存のセンサー類は移設しないで安全確保を担保した。

ここで再び問題！！



新年度となり業務が忙しく
新たに入る機器を配備する
事しかできていない...



手順4：改善活動に取り組もう

取組期間：3月20日～5月7日

手順4

- 導入準備
- 次世代介護機器の活用
- 小さな成功事例

● 導入準備

□ 実施内容

①事故発生防止検討委員会にて眠りSCAN 設置対象者の立案の根拠を検討

- ・ ADLや夜間の状況的に設置対象か否か検討
- ・ 眠りSCAN eye設置に関してはご家族の同意書をもって設置可能とする。
- ・ 機器導入に伴うナースコール類の改修工事の際にあらかじめ業者に打診し設置対象者に関しては設置と初期設定を済ませてもらう。

②生産性向上委員会、ICT委員会の発足

- ・ 眠りSCAN を含めた業務改善やマニュアル作成を主とする生産性向上委員会、眠りSCAN の運用や管理などを主とするICT委員会を新設。打ち合わせの機会を増やし多職種の見解が反映できる枠組みを作り計画的な運用を目指した。

□ 導入にあたって大切にしたいポイント

- ・ 既存のネット環境やナースコールシステムも同時着工となる為、通常業務に支障が出ないようワンユニット毎に着工。
- ・ 設置時のエラーや不測の事態にも設置業者がトラブルシューティングしていただけるようバックアップを依頼。
- ・ 現に使用する介護士の声が聞こえるようユニットリーダーを中心に情報収集を継続。

手順4：改善活動に取り組もう

取組期間：3月20日～5月7日

手順4

- 導入準備
- 次世代介護機器の活用
- 小さな成功事例

● 小さな成功事例の共有

□ 職員の声

いつも寝てると思ったけど、意外と眠りの浅い方だった

看取りの方のこまめな巡視だけではなくモニタリングもできる

□ 利用者の様子、変化

ベッド背面に設置するが、違和感の声などはゼロ

入眠サイクルを把握する事で、不眠のアセスメントに繋がる

□ 成功事例の共有方法

- ・ ケアカンファレンスやユニット会議での情報共有

手順 5 : 改善活動を振り返ろう

取組期間 : 5月7日～6月4日

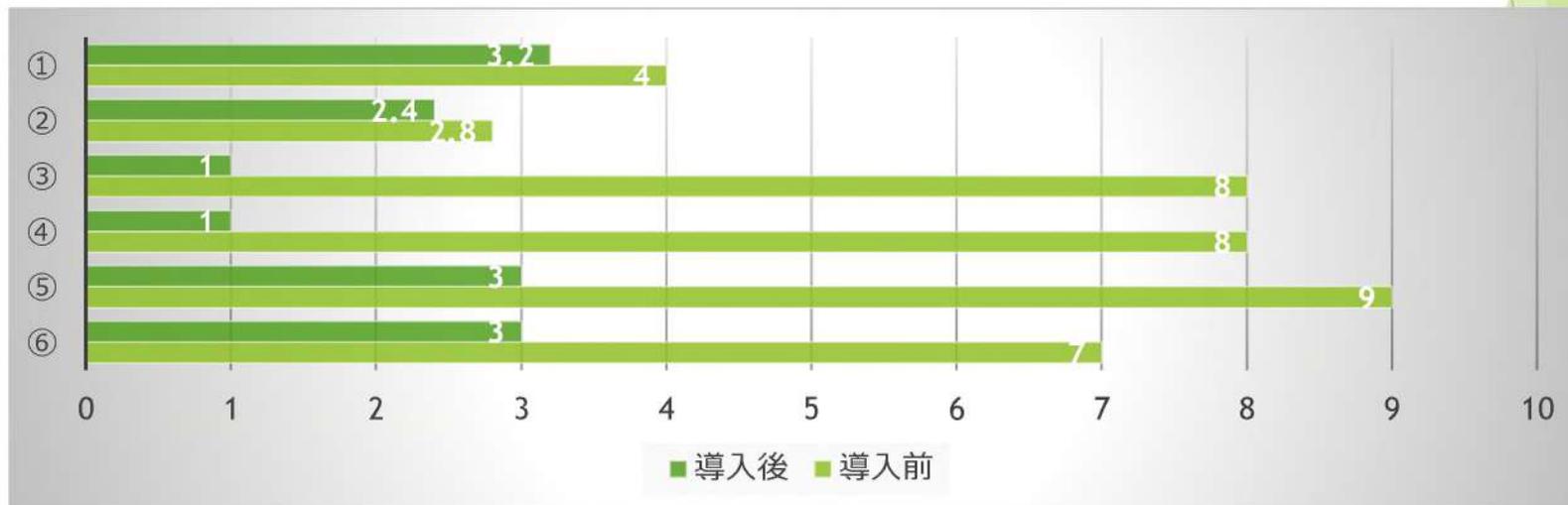
手順
5

- 効果検証
- 上手くいった点、いかなかった点の整理・分析

● 設定した成果指標における効果検証

- ①導入前アンケートにて挙げた困りごとの改善 ②入居者の安眠の確保
③センサー重複時の優先順位の判断と事故件数の減少 ④入眠状況のアセスメント
⑤職員の負担感の軽減 ⑥休憩回し不在による超勤数の減少など

- ①…明確に困っているものはなく、体感的に楽にあったと抽象的な意見が目立った
②…大きな変化はみられなかった
③…センサー重複時の事故は減少した。
④…昼夜逆転の方の入眠サイクルが明らかとなり、日中帯の過ごし方のヒントとなった。
⑤…1時間おきの居室を回る巡視から、要所の巡視に切り替わり身体的に楽になった。
⑥…協力ユニット内での休憩回しが可能となり、不要な超勤が減少した。



手順 5 : 改善活動を振り返ろう

取組期間 : 6月4日～7月2日

- 効果検証
- 上手くいった点、いかなかった点の整理・分析

● 取組全体を通して上手くいった、いかなかった点の整理・分析

□ 上手くいった点・その要因

- 負担感の減少…固定業務や移動距離が減り、疲労度に変化がみられた。
- 変化への順応…まずは触れて覚えていこうという風土作りのお陰か、職員個々が環境の変化に柔軟に対応できるようになった。
- 事故減少…不要な介入や滞在が減り、適材適所に人員を配置できるようになった。

□ 上手くいかなかった点・その要因

- 準備段階の時間の無駄遣い…何をどうしたらよいのかが分からず、通常業務に追われてしまい結果的に多くの時間を無駄にしてしまった。
- 機器導入から運用にかけて…たびたびエラーが起きたが複数社合同で改修工事をしてきた為、スムーズなトラブルシューティングが出来なかった。
- マニュアル作りや職員への発信が後手に回っており、機器が使える様になってから運用まで予想以上に時間を要してしまった。

手順 6 : 実行計画を練り直そう

取組期間 : 7月2日～8月31日

● 取組(全体)を通して見直したこと

- 機器の設置対象者の選定基準と、運用方法について
- 機器の取り扱いマニュアルの作成と業務マニュアルの見直し
- 見守りカメラの常時使用ではなく、外すアセスメントの必要性の検討
- 定期的な評価の機会の策定。
- 必要台数の検討

手順 6 : 実行計画を練り直そう

取組期間 : 9月1日～11月30日

● 取組(全体)を通して見直したこと

- 9月より記録管理システムの完全移行を実施。これによりセンサー機能のほか睡眠サイクルのデータ取り、看取り対応者の呼吸状態観察が可能に。
- 記録媒体をPC中心からスマホへ移行。入力転記に慣れたタイミングでインカム使用し音声入力も導入。
- インカムを用いた連絡ツールの活用。これまでは職員が足を使って聞いて回る引継ぎ方式から、チャット上で情報共有したり応援体制を整備。
- 機器を使いこなせる層を増やし、苦手としている職員にも現場内でOJT出来る環境を整備。日勤・夜勤ともに最低限実施すべき点をマニュアルとして配布し業務上のルールとして活用する。

手順 6 : 実行計画を練り直そう

取組期間 : 9月1日～11月30日

手順
6

- 実行計画の練り直し

● 取組(全体)を通して見直したこと

～現場からの声～

1か月程ルールとして各種機器を活用してもらい、現状手元にある機器をすべて使いこなしてみてもの改善点や要望などを抽出
(例)

- 口頭入力はスムーズに行えるが、介助中での入力（排泄状況など）はプライバシーへの配慮が必須。実施していて抵抗もある。
- 音声入力中にナースコールが鳴るとコールが優先されてしまい、記録中のデータが消えてしまう。単発記録はスムーズだが、文章入力には不向き。
- マスク、眼鏡を付けたうえでのインカム装着は痛みがあり負担。
- ナースコール時スマホも鳴動するが、どの居室か分からない。現状はいちいち画面を確認しているが、せっかく音声があるので居室番号も音声通知されると便利。
- 思っていた以上に音声入力の精度が高く修正も少ない。という意見がある一方、人によっては全く認識してくれない。など個人差がある模様。

手順 6 : 実行計画を練り直そう

取組期間 : 9月1日～11月30日

● 取組(全体)を通して見直したこと

～現場からの声～

機器側の課題や、人員体制上の課題などを洗い出し、“機器を活用する”のではなく、“適材適所に応じて機器を使いこなす”事が出来るよう委員会や役職者の集まる会議体で都度報告会を実施。

そこで出た案を現場で検証し、次回報告⇒アセスメント…と日々情報をアップデート。

現場からの意見を反映し、介護の質を担保しつついかに効率的な業務にしていけるか毎月PDCAのサイクルでブラッシュアップする。

取組を通じて気づいたこと・重要と感じたこと

- 準備段階の打ち合わせ回数について
どのように進めるべきか模索しながらの期間だった。機器の取り扱いはもちろん納入や設置に至るまでの期間を勘定出来ておらず、変化のないひと月を経て次回打ち合わせ日を迎える事もザラにあった。打ち合わせ都度次回までにしておく事のすり合わせや報告、情報収集が重要と感じている。
- 機器の設置、設定方法について
各フロアのユニットリーダーまでは業者の説明会に参加しているが、その他の現場職員はリーダーからの伝達のみで運用していた。ユニット型特養の為時間的余裕を作って集合する事自体難しいが、その調整のアナウンスなどは積極的にすべき。

次世代介護機器導入を考えている事業所の方へ伝えたいこと

段取り八分仕事二分という言葉があるように、準備段階で計画的に一つ一つ積み重ねていく事が大切。

思っている以上に想定通り物事は運ばないうえ、想定外のトラブルもつきものなので、予定通り進まない事案を進めているという心の余裕を持つことが最重要だと考える。

補助金やセミナーの締め切りに追われてしまいがちだが、より良いサービスの為にしていることが負担となってはいけません。次世代機器を導入してどのような未来図が待っているかを想像しながら、自身の事業所の実情を加味して進めて戴ければと思います。